

実践教育プログラムの参加募集について

数理・データサイエンス教育研究センター

数理・データサイエンス教育研究センターでは、文系・理系を問わず、様々なデータを適切に扱うことができる数理・データサイエンスに関する素養（数学、データ分析等）や、各自が習得する専門分野においてデータを扱う実践的な力を養う教育に取り組んでおります。

また、データに基づくコミュニケーションにより他者との協働を可能にする展開力を有する人材育成にも取り組んでおります。

本センターでは、学部学生及び大学院生（修士課程の学生のみならず、他の課程に属する大学院生も含む）を対象とし実践的な力や展開力を養成する教育プログラムを提供します。

1 実践教育プログラム

① 概要

このプログラムでは、卒業論文、修士論文などの研究における課題（自由課題）や企業・地方公共団体から提供される課題（企業課題）において、学生がその解決や企画提案を行う PBL（Project Based Learning）演習を行います。PBL 演習を通じて、データ解析の技法（情報科学・数学・統計学に係る話題も可）である実践的な力を養成いたします。

エントリーした学生の研究テーマ・内容・レベルを審査し、自由課題に関しては数理・データサイエンスに特化した学内の教員とマッチングさせ、個別指導を行います。企業課題の場合は、募集課題へ応募の上で課題解決の演習を実施します。いずれの課題もプログラム終了時には、最終レポート（別添様式）を提出してもらいます。

② 実施形態

- 自由課題の場合
 - 数理・データサイエンスを専門とする教員の紹介
 - 対面もしくはオンラインでの直接指導（約 1 時間ずつ 3 回ほど行います）
 - 電子メール等による指導（5 回程度）
 - 必要に応じて、e-Learning 教材やセミナー等の紹介
 - 最終レポート（別添様式）の提出
- 企業課題の場合
 - 課題の紹介
 - 課題提供元と協力して課題解決の演習（3-4 名程度でグループを組んで実施）
 - 課題提供元へのプレゼンテーション

➤ 最終レポートの（別添様式）提出

※企業課題は大学院共通授業科目「データ活用特論 C」として開講しています。

既にこの科目を履修登録している方は、今回改めてエントリーする必要はありません。

※参加企業と課題の詳細は別紙 2 を参照

③ 募集およびエントリーの方法

本プログラムは、所属する課程や文理を問わず、全ての学部学生及び大学院生を対象にしています。希望する学生は、以下の Google フォームよりエントリーしてください。自由課題のエントリー受付は令和 7 年 5 月 30 日（金）まで、企業課題の受付は令和 7 年 5 月 15 日（木）まで行います。エントリー期限の終了後、指導等の実施方法について案内いたします。

自由課題 令和 7 年 5 月 30 日（金）まで
<https://forms.gle/FwDkw3QKdLh5CsN9A>



企業課題 令和 7 年 5 月 15 日（木）まで
<https://forms.gle/3VHiAyddN4YtwCZY7>



過去に受講した学生のテーマや感想を下記 Web ページより参照できます。

<https://www.mdsc.hokudai.ac.jp/curriculum/pbl/>

④ 必要な消耗品等の支給について

自由課題については、学生が当プログラムに参加するために必要な経費を学生 1 人につき 10 万円を上限として当センターの事業費で負担いたします。

詳細については、エントリー審査後、個別にご案内いたします。

⑤ プログラム修了について

最終レポート（別添様式）を提出した学生はプログラム修了を認定し、希望者には修了証を発行します。

（本件担当）

学務部 学務企画課大学院教育改革推進室

数理・データサイエンス教育研究センター担当（石水）

011-706-2171

mdsc@academic.hokudai.ac.jp